

かがやきの掲載について

研究・研修だより「かがやき」は、共同機構の研究や研修要旨をお伝えするものです。今年度から、よりスピーディーな情報発信を図り、こどもみらい館のホームページ（「研究・研修」のページ）を通じ、回数を増やして発行することとしました。

平成23年度 共同機構研修会 第1回

平成23年4月22日(金)

京都市私立幼稚園協会共催

園内研修の充実～保育園(所)・幼稚園ならではの工夫～

講師 室田 一樹 岩屋保育園園長

岩屋神社宮司，社会福祉法人岩屋福社会理事長・園長，皇學館大學准教授。高校生のときに神職資格を取得。大学，大学院時代から神職として岩屋神社に奉仕。25歳で岩屋保育園園長となる。爾来，独学で保育を学んできたが，10年前に京都大学名誉教授鯨岡峻氏に出会い，指導を受ける。著書に「子どもの遊びをデザインする エコマネージメントの視点から」「鎮守の森を保育の庭に」他。

園内研修の成果が保育の場に根付くかどうかは，その研修が本当に必要な研修であるかどうかによります。子どもたちと向き合う業務の形として「エピソード記述を資料とする話し合い」を実践してきました。「エピソード記述とその語り合い」は，子どもが分かることの意味，人が生きることの意味，すなわち保育の意味を浮かびあがらせることが目的です。保育者としての懐を深くできるものです。

講師 鍋島 恵美 京都教育大学附属幼稚園副園長

京都教育大学附属幼稚園副園長。1974年西宮市立幼稚園勤務，1976年神戸市立「きこえとことばの教室」に勤務し言葉の発達障害のあるこどもの治療保育に携わる。1979年京都教育大学附属幼稚園に勤務し現在に至る。2003年京都教育大学大学院終了。その間「ニューヨークこどものくに幼稚園」で研修する。こどもの遊びはおもしろいと感じて実践研究に励んでいる。保育者であり臨床発達心理者であり二児の母。

核になる保育を支える園内研究を通して，その過程の中に園内研修があると考えます。園内研修は，保育の営みの中にあり，園内に暮らす子どもと保育者との協同・協働です。実践者は，保育をしながら子どもの実際をエピソード記録として残すことが研究の証になっていきます。保育者の心情・意欲・態度を育むことが，保育者の資質向上と保育の質の向上につながります。

<参加者のアンケートより>

「早く現場に帰って，職員と保育を語り合いたいと思った」「2つの講演で参考になる部分をとりあげたいと思います」など，自園の園内研修に積極的に取り組んでいこうとする御意見がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は，[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページへ](#)

平成23年度 共同機構研修会 第2回

平成23年5月27日(金)

京都市保育士会共催

幼児期の保育を再考する

講師 鯨岡 峻 中京大学教授

中京大学発達心理学教授。京都大学名誉教授。専門分野は、発達心理学、発達臨床心理学、保育心理学。著書に「障碍児保育」「保育のためのエピソード記述入門」他。「両義性の発達心理学」は、1999年日本保育学会学会賞（文献賞）を受賞。

5歳児の活動を考えていくとき、子どもたちが自分で遊びを見つけて自由に活動していく場面と、保育者が「こういう経験をしてほしい」と願う場面の両方を考えなければなりません。年齢が上だからすべて課題活動にというのではなく、年齢が上になっても、子どもたちが自分で遊びを見つけ出していく時間は、ぜひ保障したいものだと思います。

また課題活動に子どもを誘う場合でも、そこには集中度の高い課題活動から、拡散的な課題活動まで、かなりの幅があることも指摘しておかなければなりません。一般的には年齢が上がるに従って、拡散的な課題活動から集中型の課題活動へという流れがあると思いますが、年長児の場合でも、季節や課題の中身によっては拡散しても仕方がない場合もあることを念頭に置いておかなければなりません。そして、課題活動と言うと、どうしても課題に乗れたかどうかや、結果がうまく出せたかどうかなど、全体に目が向きやすいですが、一斉型の活動ほど、本当は子ども一人ひとりの課題に向かう気持ちや課題に取り組む過程が大事にされなければなりません。ともあれ、1日の保育の中で子どもたちが自分で自由に遊びを見つけていける時間帯と保育者が投げかける課題活動の時間帯とがブレンドされていることと、年長児であっても、課題活動の中に拡散的な課題活動から集中型の課題活動まで幅がほしいと思います。

<参加者のアンケートより>

「子どもの関わり方、気持ちの受け止め方、その他大切なことを改めて気付くことができました」「子どもたちの姿をみまもる時、できるかできないかではなく、心の動き、内面の変化をどう瞬時に見極めていくか、そして、声をかけていくか、あらためて考えていくことを大切にしたいと思いました」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。

平成23年度 共同機構特別研修会

平成23年6月27日(月)

児童家庭課・保健医療課との合同研修

孤独と虐待 そして子育て支援

講師 古川 秀明 ふるかわ家族カウンセリング研究所所長

ふるかわ家族カウンセリング研究所所長、臨床心理士。日本心理臨床学会、日本家族研究家族療法学会、日本箱庭療法学会、日本家族心理学学会に所属。平成9年より、大阪・京都にてスクールカウンセラー、2008年に京都市スクールカウンセラー・スーパーバイザーとなる。発表論文に「自閉症とパニック」日本心理臨床学会1996年、「歯科治療におけるパニックへの関わり」月刊愛護1996年等。

人は、お互いに協力して助け合う力に優れています。しかし、現代社会では、他者とのつながりが切れる孤独を感じている人が約2～3割弱います。孤独が人に及ぼす影響によいものはありません。孤独から脱却するには、人に親切にして人とつながる「つながり力」と、人に共感する「共感力」が大切です。人とのつながりの中で生きていくことが幸せです。人とつながることにはわずらわしさはありますが、それは手間暇かけてもよいことだと思います。「人は他者を満たすことでしか自分を満たせない生き物だ」ということを心に刻んでください。

<参加者のアンケートより>

「孤独が如何に人を死に向かわせるのかを教えてくださいました」「今日の研修で私自身がカウンセリングされたような・癒されました」「つながりをもって、人を幸せにできる自分でありたいと思いました。そして、人とのつながりを大事にする子どもを育てていきたいと思いました」など他者とのつながりを実践していきたい、研修を受けたことで自分が癒されたなどの感想が多数ありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#)
講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
(「子どもを共に育む
京都市民憲章」より)



発行日 平成23年9月15日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>